

歴史に見るあつみ温泉のむかしむかし

あつみ温泉の発展

あつみ温泉がいつ開湯したかについては諸説ありますが、弘仁12年（821）に弘法大師が温海を訪れた際に、利那太子のお告げを頼りにつえを突き立て、その場所から湯が湧き出たのが、あつみ温泉の始まりとも言われています。

鎌倉時代後期には湯治場として使われるようになり、慶安2年（1649）に4代当主酒井忠当公が入湯して以降、歴代の庄内藩主が湯治を行っていました。万治元年（1658）には藩主が宿泊するための御殿が建設され、その隣に温泉地内の取締りと入湯税の徴収を行う湯役所が設けられました。

ようになり、温泉地としてにぎわいを見せるようになったのです。

藩主の湯治といそ釣り

藩主が湯治を行う場合、1週間から2週間、長いときには1か月近く温泉に滞在します。その期間の最も大きな楽しみは、海辺への物見遊山であり、特にいそ釣りに熱心でした。

11代当主酒井忠発公が藩主の頃には、庄内藩の釣りが湯治を行う際には、自作の釣りざおを持ち込み、海岸線へと出掛けては日が暮れるまで一日中釣りをしていたそうです。

殿様の育てたバラ

あつみ温泉の熊野神社境内にある、あつみ温泉ばら園。ここには、かつて16代当主酒井忠良氏が致道博物館内の庭で大切に育てていたバラが移植されています。



▲温海沿岸のいそ場



▲あつみ温泉ばら園

同館の改修工事のため、一度鶴岡公園バラ園へと移され、公園の整備に伴って、平成24年にあつみ温泉ばら園へと寄贈されました。このバラは「殿様のバラ」と呼ばれ、現在も多くの人に親しまれています。

今年、開湯1、200年を迎えるあつみ温泉。その長い歴史の中でも、酒井家の湯治場として発展したことが、現在へとつながる大きな転機となったのです。

■出典 『温海町史』上巻、『観光のまち あつみ』ともに旧温海町発行、『新訂 山形県地誌』長井正太郎著、平成24年11月4日付『荘内日報』

酒井家庄内入部400年記念事業公式ロゴマークの一般投票を行います

候補デザイン3点から一般投票で本事業の公式ロゴマークを決定します。

※一般公募した作品から、現在候補作品を選定しています。

■投票期間

2月18日(金)～3月18日(金) (必着)

■投票方法

- ①実行委員会ホームページから投票
- ②投票用紙（市役所本所、各地域庁舎、コミュニティセンター等に設置予定）を本所政策企画課（〒997-8601市内馬場町9-25、FAX25-2990）へ

投票された方に記念品を贈呈します！

投票された方の中から、抽せんで100人に記念品を贈呈します。

※当選者の発表は記念品の発送をもって代えさせていただきます。

実行委員会ホームページはこちら→
(<https://sakai400th.jp>)



■問合せ 本所政策企画課 ☎25-2111 内線526

編集・発行／鶴岡市総務部総務課

鶴岡市役所 本所	〒997-8601 (メールアドレス) (ホームページ) (フェイスブックページ) (窓口受付時間)	山形県鶴岡市馬場町9-25 ☎0235-25-2111 FAX0235-24-9071 tsuruoka@city.tsuruoka.lg.jp http://www.city.tsuruoka.lg.jp https://www.facebook.com/tsuruokacity 月曜～金曜日（祝日・年末年始を除く） 午前8時30分～午後5時15分
藤島庁舎	〒999-7696	市内藤島字笹花25 ☎64-2111
羽黒庁舎	〒997-0192	市内羽黒町荒川字前田元89 ☎62-2111
櫛引庁舎	〒997-0346	市内上山添字文栄100 ☎57-2111
朝日庁舎	〒997-0492	市内下名川字落合1 ☎53-2111
温海庁舎	〒999-7205	市内温海戊577-1 ☎43-2111



↑メールはこちらから



↑ホームページはこちらから



↑フェイスブックはこちらから



↑ツイッターはこちらから

《人口と世帯》（令和2年12月31日現在）

住民基本台帳人口合計：124,003人
（男：59,317人、女：64,686人）
世帯数：49,253世帯